

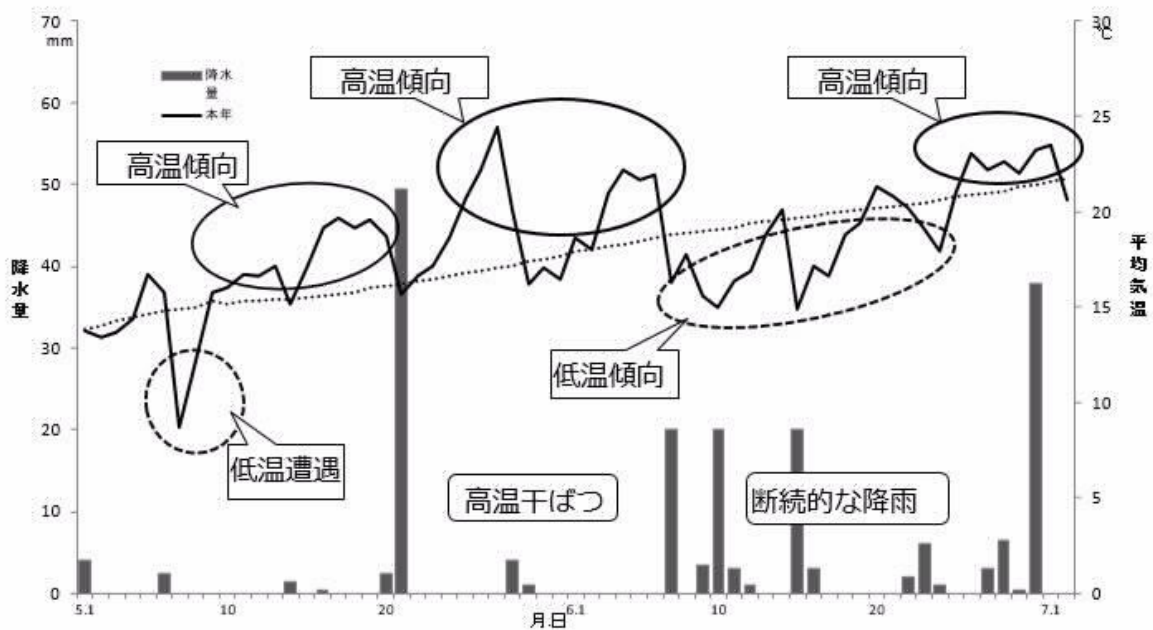
農業協同組合米穀生産指導担当者 様
 全農長野生産事業部米穀課担当者 様
 全農長野中信事業所生産販売課米穀担当者 様
 関東農政局長野支局松本地域センター担当者 様
 長野県農業共済組合中信地域センター
 松塩筑支所、安曇野支所担当者 様

松本農業改良普及センター技術係作物担当

令和元年度 作物技術情報 第6号

(水稻の生育状況・出穂期予測、大豆の湿害・雑草対策について)
 (8枚 送付)

令和元年 気象経過(穂高アメダス 5月1日~7月2日)現在



1 水稻生育状況 (7月1日現在)

令和元年

7月1日現在 水稻生育状況

	安曇野市豊科 水稻奨決ほ (5月15日田植) (標高: 560m)						麻績村 定点 (標高620m)	
	コシヒカリ		あきたこまち		美山錦		コシヒカリ	
	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/株)
本年	46	617	46	558	43	557	59	32
平年	49	648	49	553	51	489		
平年比	93%	95%	92%	101%	84%	114%		
昨年(H30)	48	705	49	608	49	443		
昨年比	96%	87%	92%	92%	87%	126%		

注) 平年値は以下の年度の平均値を示す。豊科コシヒカリ: S59~H30、同あきたこまち: H14~H30、同美山錦: H13~H30、麻績村は本年より平年値無し、S: 昭和、H: 平成の略称。

7月2日現在 水稲の生育進度（今後気温が平年並みに経過した場合）

平年との生育進度の比較	7月2日	現在のDVI（発育指数）による生育進度推定
	7月3日	以降 気温が平年並みに経過した場合
	7月3日	以降 気温が平年より2℃高く経過した場合

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合

コシヒカリ 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の子測日	幼穂長 10mm の子測日	出穂期 の子測日
本年	0.569	7月16日	7月23日	8月7日
平年	0.549	7月16日	7月23日	8月9日
平年差	-1.859			
+2℃推移	0.569	7月11日	7月18日	8月1日

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

あきた こまち 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の子測日	幼穂長 10mm の子測日	出穂期 の子測日
本年	0.676	7月6日	7月13日	7月29日
平年	0.681	7月6日	7月13日	7月28日
平年差	0.523			
+2℃推移	0.676	7月2日	7月9日	7月23日

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

- 豊科定点圃場では草丈は平年より短く、茎数は並から多い傾向です。最高分けつ期で、畝間の見えないような茎数過剰の圃場も見られます。茎数過剰で中干しが未実施の圃場では、早急に中干しをお願いします。7月2日現在、DVIによるコシヒカリの生育進度は「平年より2日早い」と推定しています。
- 向こう1ヶ月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年と同様に晴れの日が多いとされ、生育は順調に進むと見られます。

2 いもち病、カメムシ対策（畦畔除草）について

○ 長野地方気象台の発表によると、今後1ヶ月予報では気温は高め、降水量は多めで日照は少ない傾向にあると見られます。生育では、分けつが過剰気味な圃場も散見されて来たため、いもち病にも注意が必要と思われます。

7月1日現在、いもち病の感染好適条件は出されていませんが、特に、常発地帯・昨年多発した圃場、有機物のすき混みの多い圃場、わらや脱穀の残渣を放置した場所、苗箱剤の未使用圃場、直播圃場等では、圃場をよく観察して、発生状況によっては防除対策を講じてください。

苗箱剤を使用していても、7月下旬から感染好適条件が頻発すると、穂いもちの発生が多くなる場合があります（例：平成23・25・26・27年）ので、今後の葉いもちの発生状況（特に上位葉の病斑の有無）には十分ご注意ください。

○ 水田畦畔や水田周辺の雑草防除はカメムシ対策に有効です。カメムシの本田への追い込みを防ぐためにも、出穂2週間前まで（海の日：7月17日を目標）に、畦畔除草を済ませるようにお願いします。

3 適期中干しと適期・適量追肥について

「適期中干しによる適正茎数確保」と「黄化させすぎない適期・適量穂肥」は高温障害対策にもつながります。

4 大豆の湿害・雑草対策について（再掲載）

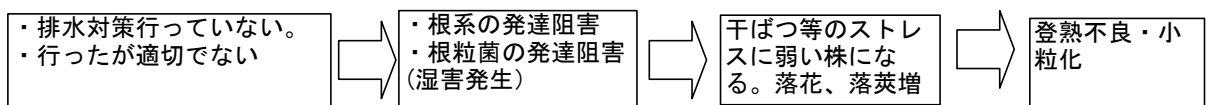
小麦後大豆は播種が始まっています。播種後1か月間は、大豆の出芽～初期生育を確保し、効果的な雑草防除に最も重要な時期ですので、下記の点についてご留意ください。

（1）湿害対策の徹底

額縁明渠や排水溝等を設置し、湿害対策をしっかりと行うことが、大豆の出芽や初期生育を安定させるのに最も重要です。また湿害対策が干ばつ対策にもつながります。

明渠や排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか・・圃場外に確実に排水ができているか・・を再度ご確認ください。

【 湿害～干ばつによる減収パターン 】



（2）雑草対策について

播種後土壌処理除草剤の処理は必ず実施してください。播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の碎土状況（粗いと効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと効果劣る）が重要なポイントです。

また播種後2週間位で圃場を観察し、除草剤の効果の確認をお願いします。残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。

雑草が大きくなりすぎ、茎葉処理剤の効果が十分に発揮されない場合がありますので、タイミングを失わないようにお願いします。

近年、帰化アサガオの発生が問題になっています。放置すると2～3年で、ほ場に蔓延して手に負えなくなるので、発生の少ない内にほ場から除去することが重要です。

帰化アサガオに対しては、「茎葉処理除草剤」と「非選択性除草剤の畝間処理」を組み合わせた対策も有効です。詳細は普及センター担当までお尋ねください。